

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171901514		
法人名	有限会社神居寿々蘭の里		
事業所名	グループホーム 喜ユニット1		
所在地	旭川市高砂台8丁目3番10号		
自己評価作成日	平成28年6月30日	評価結果市町村受理日	平成28年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様やそのご家族様及び地域の皆様と信頼関係を築き、安心・安全に毎日の生活が送ることができるように取り組んでいます。施設の行事を通じて、ご家族様同士や地域の方との交流を大切にしています。また、運営推進委員会の皆様の意見を参考にしながら改善に努めて参ります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani%2Fue&JigvosyoCd=0172901514-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年7月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年3月に旭川市の南西部の丘陵地に立地するホテルを改装して開設された、グループホーム「喜」は、見晴らしの良さが利用者の心を和ませる絶好の環境にある。開設時に作られた運営理念は、「家庭の絆」と「地域の交流」を基本に据え、利用者が生き生きとした生活が送れるよう支援する事を念頭に、毎月唱和し実践出来るよう取り組んでいる。また、職員の基本姿勢を明記しスローガンとして毎日唱和し、「おはようございます」「いらっしやいませ」「おつかれさまでした」「ありがとうございました」と、感謝等基本を大切にされた対応を心掛けている。開設して12年の現在、経営者が交代し、また新たな方向を模索しており、管理者、職員が共に利用者第一の事業所を目指し、前進させていこうという意欲が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、介護理念に基づき地域の皆様との交流を大切に職員が一丸となって取り組んでいる	事務室、廊下に運営理念、介護理念を掲示し、毎月月初に運営理念を、毎日4項目のスローガンを唱和して、笑顔での対応を心掛け実践している。管理者、職員は「自立、笑顔、思いやり、尊厳」の4項目の介護理念を支援目標とし実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会や地域の行事にも積極的に参加している	開設時より町内会に加入し現在は役員を務めている。町内会主催の夏祭りや、毎月の講座に参加したり、事業所のジギスカン等の食事会には地域住民が参加して相互交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症に関する理解を深めてもらう取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じて参加者の意見を取り入れて施設の運営に反映している	運営推進会議は年6回、市担当者、町内会役員、地区委員会役員、民生委員、有識者、利用者家族の出席を得て、現況報告、質疑、意見を得たり、町内会役員からは地域の現況について逐次話があり運営に活かせるよう取り組んでいる。	利用者家族の出席が得られるような工夫や議事録の充実、全家族との情報共有が出来る体制構築を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当部署とは常に連帯を密にし、介護高齢課の担当者には運営推進委員として参加を頂いており情報交換を行っている	市担当者とは、運営推進会議や報告書提出時に積極的に情報を得よう関係構築している。また、地域包括支援センター職員とも情報交換して連携を密に取り運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については入所時に家族との話し合いで合意を頂いている。その他は身体拘束廃止検討委員会で検討し、対応している	身体拘束の該当事項がある時は身体拘束廃止検討委員会を開催して他の措置等の検討を行い廃止に向けて取り組んでいる。検討委員会開催後の処置については必ず利用者家族の理解と同意を得ている。研修については外部研修受講後、職員に周知するよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士でお互いに防止に努めている(特に言葉使いによる虐待に注意している)本人が気づいていない事がある。研修や勉強会等に参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修会へ参加させて頂いた事を参考にして身上監護や財産管理には注意を払っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の説明は施設見学及び契約時に契約書及び重要事項に基づき詳しく説明し納得を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や各種行事の参加時に意見や要望を頂いています。	利用者の意見や要望は管理者、職員が会話の中で把握している。また、利用者家族とは来訪時の会話や遠方の家族とは電話で希望や要望を把握し運営に反映できるよう取り組んでいる。	利用者家族への情報提供手段は会話と限られており、事業所便り、親睦交流会等可能な手段の工夫を期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等を通じて意見を聞き反映しています	管理者、ケアマネージャーは申し送りや、日常の業務の中で職員の意見や要望、提案を把握し運営に反映するよう努めている。	職員の意見等把握の為に定期的な会議の開催や、研修機会の提供、事業所運営に必要なマニュアルの整備等更なる体制構築を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得に向けて各種研修の情報を提供等の配慮を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会へ積極的に参加できるように勤務体制等の配慮を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神居地区のグループホーム研究会又は複数事業所との合同の研修を受講し意見交換や交流を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の経歴や生活歴を知ることにより、コミュニケーションを取り要望や不安な事を受け止め努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族との信頼関係を築くため利用者様の情報を伝え要望を聞き早期に対応する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のアセスメントを行い必要とする支援を職員・家族と話し合い対応を進めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに助け合いながら生活をしていることを意識し、共同作業を一緒にして信頼関係を築くことを心がけている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にし、利用者様と家族の交流が出来るような関係を築けるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力によりこれまで交流のあった方へ各種行事の参加を呼び掛けている	以前からの友人が訪ねて来た時には歓迎し、冠婚葬祭への出席希望の対応、囲碁、将棋、麻雀、カラオケ等、利用者のこれまでの関わりや趣味、習慣を大切にされた支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を職員が把握して利用者様同士が気軽に話し合えるように配慮している(レクリエーションや談話室の利用)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族であっても希望者には施設の各種行事へ参加を呼びかけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理強いをせず思いや意向を把握し、意思疎通が困難な時は家族から情報の提供を頂いている	管理者、職員は利用者の生活歴を把握し、日常の会話や記録を活用する中で意向や思いの把握に努め、快適に生活出来る様支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人との会話を十分に行うことはもとより家族からも情報の提供を頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方のリズムを早く把握するためこれまでの生活状況、個々のリズムを把握して関係者から聞き取りを行う		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況を職員会議等で打合せをして、家族の意向を聞き入れ、話し合い現状に即して計画作成をしている。特に担当職員が中心となり作成している	介護計画は基本的に6ヶ月毎に見直しを行っている。サービス担当者会議に家族の出席は無いが、来訪時に要望を把握している。日常のサービスは記号化し、提供した状況が記録され、モニタリングに反映し適切な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況については個人のファイルに記録をして、申し送りや報告し情報の共有を図り介護に活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の意向を確認しながらサービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活環境を有効に生かして安心・安全に日常生活を送れるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から病気や主治医との関わりを密にして相談できる関係づくりに努めています。特に医師から直接治療方針を得て本人の回復に努めています。	利用者、家族の希望する医療機関と連携し、事業所対応で通院支援を行っている。泌尿器科、歯科医の往診も得られている。事業所の看護師の他、本部の24時間対応のナースチームの訪問看護により利用者の健康管理が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	並木通りクリニック等とホームの看護職員が連携して適切な支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通しての入院であり病院職員との関わりは良好で相談出来る状況にある		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に終末医療について十分に話し合いを行っており施設で出来る範囲を確認している。又、家族が希望すれば、医師、家族、施設で話し合い終末医療対応も可能である	入居時に事業所の対応及び出来る範囲を説明し、同意書の他に利用者、家族の希望を文書化し交わしている。現在は看取り介護は取り組む方向ではないが、利用者、家族の希望に沿った支援を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間対応の訪問看護ステーションの活用や職場内外研修を行い知識の取得に努め万が一に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害の避難訓練を年2回実施し対応できる体制作りに努めています。運営推進委員等の地域にも協力体制をお願いしている	年2回の火災避難訓練を日中、夜間想定で実施している。運営推進会議等で、町内住民に協力要請している。半年毎に業者による設備点検が行われている。	火災時の地域住民の協力体制構築、火災以外の災害(地震、ライフライン切断等)の対策、特に停電時の対策を検討、実施すると共に、災害対策マニュアルを作成していく事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の性格を十分に理解し、お互いにコミュニケーションを取り合える関係作りに努めている。特に、利用者様ご家族の話を聞き尊重している	利用者への呼びかけはさん付けを基本としている。管理者、職員は日常的に利用者の尊厳や、プライバシーに配慮し、自己決定を促す等利用者本位の対応を心掛けている。記録の保管も配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者様と信頼関係を築きお互いにコミュニケーションをとり、希望を理解できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の視点に立った介護を心がけている。利用者様の希望、要望を聞き本人のペースで生活出来るように介護している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に沿った身だしなみを心掛け毎朝身だしなみのチェックを行っている。月に1回訪問理容を利用して美容に配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材を利用したり調理をしながら季節感を十分に味わってもらえるように努めています。食事の色合いにも気をつけています。	事業所に調理職員、栄養士が在籍しており、栄養バランスに配慮し、季節感のある献立を作成している。利用者全員の水分量、食事摂取量も記録されている。大きなテーブルを囲みみんなで和やかに食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事は栄養士が献立を作成。栄養のバランスに気をつけています。1日の食事量や水分摂取量について個人チェック表に記載。必要に応じて把握しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔のうがいや義歯の洗浄を食後に行い常に汚れや匂いがないように支援しています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄リズムを知ることで、トイレで排泄がスムーズにできるようにする。自立排泄に向けた努力を行っている	排泄記録、特に排便記録は一目でわかる様に工夫して作成し、パターンを把握する中で、プライバシーにも配慮しながら支援に取り組んでいる。留置バルーンの利用者への対応やポータブルを使用する等、利用者に合わせて支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないような献立については栄養士が献立を作成。日中は適度な運動(散歩等)を行い予防している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回と決めているが体調や気温や通院状況に応じて考慮している	入浴チェック表を作成し、週2回は入浴出来る様支援している。体調に合わせ、清拭やシャワー浴等、柔軟な支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のパターンを把握して安心していただけるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の服薬の状況を共有し、直接口に入れて完全に内服した事の確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でそれを活用しお手伝いや遊び、レクリエーション等に活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には施設周辺の散歩や近所の公園にも出かけている。又、利用者の希望により近所の商店へ買い物に出かけている	天候や体調に留意しながら近隣公園に散歩に出掛けたり、希望で買い物に出掛けたりしている。今後、遠方への外出支援も検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら買物していただけるように支援を行っている。出来ない方には職員がお手伝いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの手紙を手渡している。又電話等の依頼があれば外部と連絡出来るようにお手伝いしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋からの展望は市内が一望でき、四季折々の景観が楽しめる。食堂や娯楽室は利用者同士の交流の場として安心して過ごしていただけるように工夫しています。	事業所内は広く部屋数の多さを利用し娯楽室、喫煙室等があり利用者の交流の場となっている。各部屋の大きな窓からは、春は桜、秋は紅葉が楽しめ、四季の移り変わりが身近に感じられる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室、喫煙室、談話室を活用して、気分転換ができるように配慮しています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の広さを活用し自分なりに好きなように家具を配置したりして居心地の良い空間づくりをしている	各居室は十分な広さがありクローゼットが設置されている。利用者は使い慣れた家具や仏壇、テレビ等を配置している。管理者、職員は家族の協力を得ながら、その人らしく、安心して暮らせる様、支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設置し自由に安全に行動できるように配慮している。フラットで無駄な物を廊下に置かず安全に配慮しています。		